

不振の根

ソチオリンピックが終わりまし。各競技のルールは、日本が優勢になると何故か良く変わります。

TPPと同じ、対米経済ルールです。これは日本が強くなったからでは有りません。どうも戦後の植民地で家畜を太らせ、自国のためしやぶりに尽くすようです。これに迎合する一定の勢力が国内にあるのも事実です。

事業不振の会社が順調な会社になぜ順調か説明を聞き見習ったとしても、殆ど役に立たないはずで。

これはどんな業界であつても、まず資質を含め時期も全て、環境が違います。気合は学ぶとしても普遍的な法則自体は常識的であり、新しい物を求めても無いに等しい。

言えることは、有名な論理に、経営とは結果(目的)から始め、それに到達するために出来る限りのことをすることである。この目指す目的に、人間の心根善き美的な感覚が問われ、経営はアートだと良く言われます。目標は高ければ高いほど良いと言えます。

「天国に行くための最良な方法は、地獄に行く道を熟知することである」とマキャベリが言っています。

現在地と目的地がない地図を持ち冬山に入るようなものです。ホワイトアウトの状況であつ

ても、雪崩で装備のすべてを失つても地図かコンパスがあれば行く先に希望が見えます。たとえ地図が違つていても方向の共有と意志の力で助かる気力を持ちたい。

本来経営とは、本を読むのとは逆です。終わりから始め、組み立てるものです。

なぜ自社の業績が長期に渡つて改善しないのか説明できないでしょう。

平成以来デフレの過程に翻弄されているためでしょう。こんな会社の多くは変革(イノベーション)がなされていません。会社で見えない「見える化」に遅れ、「話せる化」の資本の効率化に程遠いのが弱点です。売上や資産が停滞し負債が右上がりです。売上は社長がしていると錯覚されている方がおいでる

結果である会社の業績は長期に渡る成長の実績です。終わりをリアルに、絵に見えるまで書いている人は、従業員を含めて、果たしてどれだけのつもりでしょうか。殆どいないと思えるのです。そもそも儲けのため、続けるためだけに、始めたのでは無いはずで。

新たなビジネスモデルを構築できれば、儲けがついてきます。しかし俗人の私達には簡単で有りません。問題点を全員で共有し、解決法を考え成功に変えてい

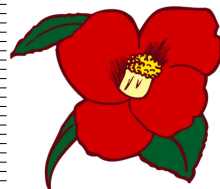
ものですが、従業員です。

社長のすべきことは目標を掲げ従業員の雇用と生活を守り、債務を縮小し資産(現金)を増やすことです。そのために何が必要なか

反社会的

カスも払えない社長は、企業人としての問題を自覚してない。

分かつていないのだと思う。中長期的な目標も語られず、聞いたことは有りません。真のアスリートは金メダルを目指します。目標のない選手は存在しない。即時かと問われますが、



退場すべきであります。

環境に翻弄され、税金以前の会社が多く存在します。力に当事務所がなり得ていない明らかな証明です。「税金は利益のカス」です。カスも払えない社長は、企業人としての問題を自覚してない。

利益は本当の実力でなく時代の運。謙虚さも大切ですが、払おうとしないのは「反社会的」と反省すべきでしょう。その前に相応しい政府かと問われますが、

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2014年2月24日(月) NO 336
地域から明るい未来を作ろう